

# SD法を用いた授業満足度の 感性評価

島田英昭 (信州大学教育学部)

荷方邦夫 (金沢美術工芸大学美術工芸学部)

# 問題と目的

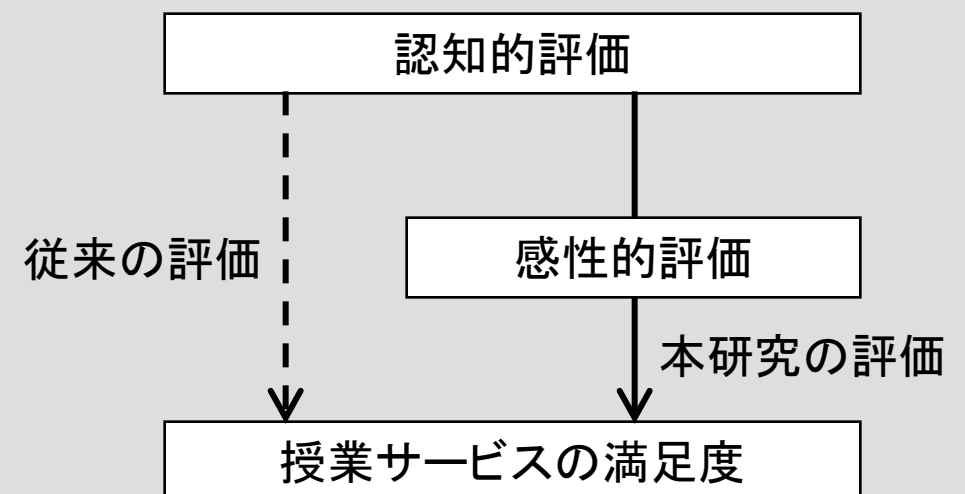
## 生涯学習と満足度

- 授業サービス(授業、講義、講演など)の評価が求められている。
  - サービスサイエンスへの注目
- 生涯学習は強制力がないので、高い満足度が学習効果を高める。
  - リピーター、参加の促進
- 感性レベルの評価が求められている。
  - 「新鮮だった」「楽しかった」
  - 従来のアンケートが評価する認知レベル(「内容が難しかった」「時間配分は適切であった」とは異なる。

## 本研究の目的と方法

- 授業サービスの評価モデル(右図)を想定し、感性レベルの評価構造を明らかにする。
  - 認知レベルと満足度の中間に感性レベルを仮定する。
- 大学生を対象として、SD法を利用する。
  - 大学生は、授業経験を豊富に持つ。
  - SD法は、感性レベルの評価手法として適当である。

### ■ 授業サービスの評価モデル



# 予備調査

## ■ 目的

- SD法に用いる項目の収集

## ■ 方法

- N=78(2年生以上の大学生)
- 質問紙(2つの質問)
  - 『あなたが大学生生活で「もっとも満足した授業」を1つ思い浮かべてください。その授業を、状態を表すいくつかの言葉(形容詞など)で表現してください。たとえば、「健康な」「不安定な」「かたい」などです。できるだけ、10個以上の言葉で表現してください。正解・不正解はありませんので、思いつくままに書いてください。』
  - 『あなたが大学生生活で「もっとも不満だった授業」を1つ思い……(以下同様)』

## ■ 結果

- SD法に用いる評価項目対を45項目作成
- 評価性、活動性、力量性の各因子に関連する典型的項目も加えた。

# 方法(本調査)

## ■ 材料

- 質問紙(3つの質問)
  - 『あなたが大学生活で「もっとも満足した授業」を1つ思い浮かべてください。その授業を思い浮かべながら、以下のそれぞれの用語対において、もっともよく当てはまると思う場所に、例のように○を付けてください。』
    - 45の項目対に回答
    - 「とても○○」、「どちらかといえば」「どちらともいえない」「どちらかといえば」「とても」の5段階評価
    - 『あなたが大学生活で「もっとも不満だった授業」を1つ思い……………』
    - 『あなたが大学生活で「中程度に満足した授業」を1つ思い……………』
- 項目の順序および対の左右配置をランダムにした3パターンの質問紙を用意(項目の順序による効果を避けるため)

## ■ 調査対象者

- N=71(3年生以上の大学生)
  - 1名のデータは分析から除外(データの大幅な欠損による)

# 結果と考察(1)

## ■ 因子分析による評価次元の特定

- 方針: できるだけ少ない因子で授業評価の妥当な指標を得るために、単純構造になるような項目を選定する。
- 手順:
  - 評定を1~5点に得点化。70名×3条件=210サンプル。
  - スクリーンプロット等により2因子と決定。
  - 最尤法、プロマックス回転により因子分析。
  - 因子負荷量から項目を選定。
    - 一方の因子が.40以上
    - もう一方が.25未満
  - 同様の手続きを繰り返す。
- 2因子、20項目の評価指標(右図)
  - 累積寄与率は49.4%
  - $\alpha$ 係数は、第一因子が.93、第二因子が.81

## ■ 得られた因子構造

	評価性 (基本)	力量性 (やりがい)
良い-悪い	.910	-.107
快い-不快な	.845	.088
上手な-下手な	.805	.021
好きな-嫌いな	.799	.068
豊かな-貧しい	.795	-.121
わかりやすい-わかりにくい	.748	.109
斬新な-陳腐な	.723	-.015
親切的な-不親切的な	.723	.152
正確な-不正確な	.699	-.147
明確な-曖昧な	.670	-.080
熱い-冷めた	.641	.034
積極的な-消極的な	.569	.030
美しい-汚い	.546	-.047
広い-狭い	.416	.045
易しい-難しい	-.083	.801
楽な-大変な	.007	.698
優しい-厳しい	.120	.625
簡潔な-複雑な	-.052	.623
気楽な-緊張した	.026	.566
軽い-重い	-.032	.553

# 結果と考察(2)

## ■ 因子の解釈

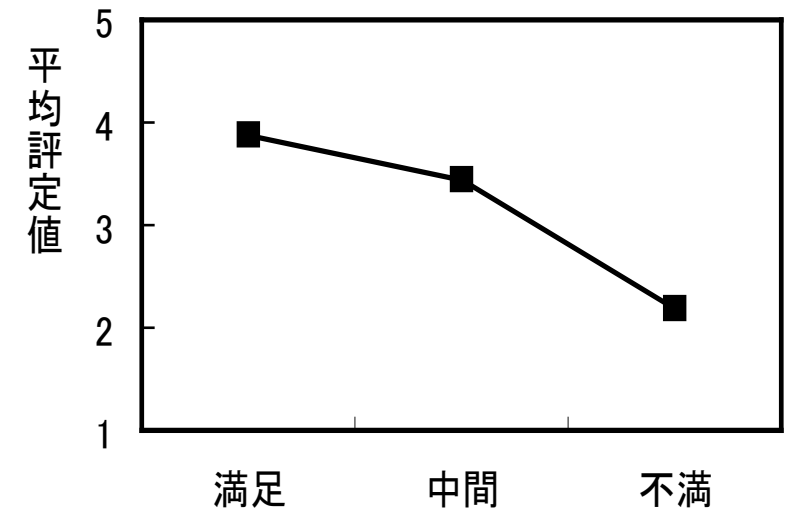
- 第一因子: 評価性
  - 「美しいー汚い」「好きなー嫌いな」「良いー悪い」の典型的項目を含むため。
- 第二因子: 力量性
  - 「軽いー重い」の典型的項目を含むため。
  - 「やわらかいー硬い」も、比較的高い因子負荷量があったため。
- 活動性因子については、授業評価に影響を与えないと判断した。

## ■ 各評価次元と満足度

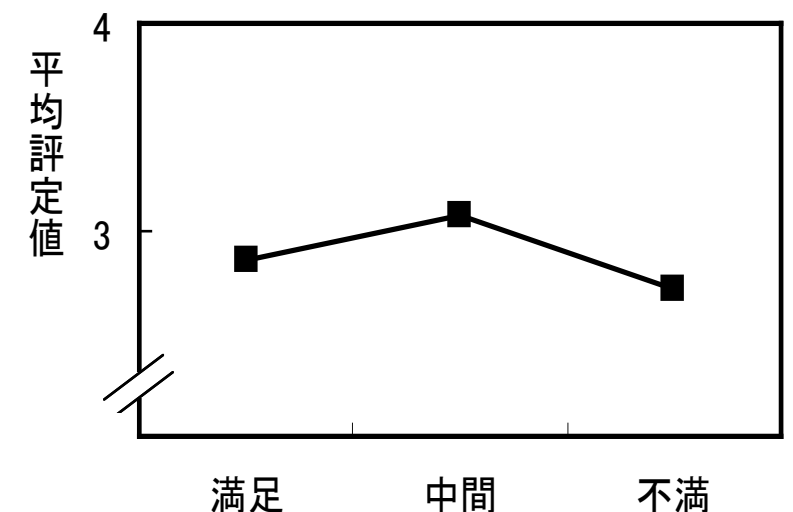
- 満足条件において最も平均値が高く、中間条件、不満条件になるにしたがって平均値が下がった。
  - 評価性が高い授業ほど満足。
- 中間条件が最も高く、満足条件と不満条件が中間条件よりも低かった。
  - 力量性が低い(難しい、大変な)授業は、満足にも不満にもつながる。

## ■ 評価次元と満足度の関係

評価性因子



力量性因子



# 結果と考察(3)

## ■ 因子の再解釈

- 評価性＝基本因子
  - 評価性に関しては、典型的には「良い－悪い」を代表として、基本的な授業にあるべき性質が反映されている。授業に必要な基本的な因子という意味で、「基本因子」と解釈できる。
- 力量性＝やりがい因子
  - 「優しい－厳しい」を代表とする、授業の厳しさが評価されている。満足度との関係を考えてみると、厳しい場合には不満の原因にもなるが、満足の原因にもなるという2面性がある。満足の原因となる場合には、正の意味を強調すれば、「やりがい」と考えられ、「やりがい因子」と解釈することができる。

## ■ やりがい因子の意味

- 経験的に、学生の授業評価を行うと、易しく、楽な授業の評価が高いと言われることがある。しかし、そのような授業は不満にはならないが、満足にもならない。工夫がなければ不満にも直結するが、厳しい授業が望ましい。

## ■ 今後の課題

- 認知レベルと感性レベルの関係の吟味
- 生涯学習の評価としての妥当性（本研究は「大学生の授業評価」を題材としたため）